



被災者招待で地域振興

渡辺 豊博

NPO法人「グラウンドワーク三島」事務局長



子供たちの「心のケア」を支援

グラウンドワーク三島は、

静岡県三島市に拠点を置く環境NPOだ。20年間にわたり、多様な環境再生活動を実践し、昨年、第16回日韓国際環境賞を頂いた。

阪神大震災(95年)の時には、私自身、約50日間にわたり被災地に入り、数千本の水と数千人分の豚汁を届けた。精神的ダメージを受けた被災孤児数人を三島に受け入れ、「心のケア」をさせていた。子どもたちとは今も「家族」のような付き合いを続け

ている。

東日本大震災の発生を受け、4月上旬から5回にわたり、宮城県石巻市や福島県いわき市などの避難所を回り、被災者の声を直接聞いてきた。今最も必要とされる支援活動とは何なのか、NPOとして確認するためだ。

親たちの共通した思いは、元気を失った被災児童の「心のケア」をどうすればいいのか——というものだった。避難所で出会った多くの被災児童も普段の元気を失い、何か



心に重荷と深い傷を背負っているように感じた。

発生から時間がたつにつれ、被災児童への悪影響が形となって表れている。例えば、いじめや引きこもりの増加が顕著で、心が痛む。被災児童の心をむしばむ厳しい状況が急速に深刻化しているようだ。そこで、グラウンドワーク

三島は、被災児童などの「心のケア」を支援するために「子どもを元気に富士山プロジェクト」を発足させ、募金活動を始めた。

これまでに「心を元気にするショートツアー」を6回実施し、石巻市、いわき市など

子どもを元気に富士山プロジェクト

東日本大震災に関連し、グラウンドワーク三島が計画している多様な支援活動の総称。①「心を元気にするショートツアー」①1万人②「富士山に登って元気になるツアー」②1000人③「子どもを元気にスポー

の被災児童と親族ら約310人を三島市内での川遊びや伊豆の温泉に2泊3日で招待した。皆さん、被災地から離れて温泉につかり、支援ボランティアとの何気ない会話を通して疲れた心身が癒やされ、元気と笑顔が劇的によみがえった。

さらに、8月上旬には「一度、富士山に登りたい」という被災者ためのイベントも開催し、大人も含め約90人が登山に挑戦した。下山後、みんな晴れ晴れとした顔つきで「富

ツ交流」④1000人⑤「心と体のメディカルチェックツアー」⑤500人⑥「大学生出前寺子屋教室」⑥1万人(いずれも招待、延べ人数。資金確保のための活動支援組織「エンジェル・ピース」を設立し、被災児童がデザインしたTシャツを販売。被災者の就労支援にも取り組んでいる。

士山から元気と勇気を頂いたと大喜びんでいた。豊かな自然環境を満喫し、温泉に泊まっておいしい料理を頂けば、被災児童たちの心は必ず癒やされる。私たちの招待旅行は、伊豆地域の観光振興や地域振興にもつながり、波及効果の大きい取り組みだと自負している。

現在、約1万人もの被災者が招待旅行を希望している。実現するためには、約2億円が必要となる。希望者全員をご招待できるよう、市民目録の人間味あふれるサービスの提供を目指し、新たな資金確保の仕組みづくりに挑戦しようとして決意している。

わたなべ・とよひろ 50年、秋田市生まれ。東京農工大学卒。73年静岡県庁に入庁。NPO推進室長など歴任。08年都留文科大教授。農学博士。